

# 防災・交通部会

## 活動一覧

年月日	種別	場所	人数	内容
11. 4. 17	例会 1	別館	16	正副部会長・書記選出。
5. 8	例会 2	藤が丘	9	広報委員推薦・部会名称と開催日決定、活動テーマなどで意見交換。
6. 12	例会 3	山内	10	「区民のつどい」部会取り組み方針、年間活動計画など検討。
7. 10	例会 4	藤が丘	9	「区民のつどい」(7・3) 報告、「次年度予算要望」で論議、7月末提出。
8. 14	例会 5	公会堂	8	「放置自転車対策」で近隣自治体調査決定、青葉署懇談会開催検討。大型企画「未来像を語る会」の提案決定(市政5周年協賛とする)。
8. 25	調査	鷺沼・溝ノ口	6	自転車整理状況早朝視察。
8. 31	調査	藤沢	3	自転車整理状況早朝視察、藤沢市担当者ヒアリング。
9. 11	例会 6	別館	9	「放置自転車視察報告」、「語る会」実行委員決定。
10. 9	例会 7	若草台	9	近隣8自治体の自転車対策主管部局調査報告～市民部局主管は大和市のみと報告。
11. 20	例会 8	藤が丘	9	「災害帰宅訓練」の年度内実施を決定。
同上	訓練	美しが丘	9	例会後、美しが丘連合自治会防災訓練参加。
12. 11	例会 9	山内	9	「あざみ野駅西口信号スクランブル化」山内連合自治会と共同提案決定。区民会議全市交流会(11・24)の部会参加者報告。
同上	調査	あざみ野駅前	9	例会後、現地調査:「斜め横断」日常化の信号2カ所視察。
12. 1. 8	例会 10	公会堂	9	「あざみ野駅前信号問題」その後の扱いで報告。
1. 30	訓練	二子多摩川～市ヶ尾	7	「災害帰宅訓練」13kmを奨励3.5hで歩行。
2. 12	例会 11	若草台	7	「災害帰宅訓練」報告、多摩川渡河など問題点検討必要で一致。「語る会」動員対策、「放置自転車対策の部会提言」(副部会長)など検討。
2. 16	行政対話	区役所	6	「あざみ野駅前信号」で青葉署回答:「スクランブル化不可能」
3. 11	例会 12	別館	9	「あざみ野信号」報告、「語る会」(2・19)「評価」、2年目活動で論議。
4. 8	例会 13	藤が丘	8	委員総会(4・1)報告:部会活動報告中心の運営を「評価」。今年の「地域のつどい」中止、「ホームページ開設小委」発足了承。12年度活動テーマ提案:「防災」防災センター見学・防災勉強会・災害帰宅体験会・マップ作り。「交通」自転車・青葉台駅周辺交通対策・住宅地循環小型バス導入シンポジウム開催・青葉署懇談会。青葉区マスタープラン・スタッフ会議参加者決定。
5. 13	例会 14	奈良	8	「ホームページ開設準備委」報告:6月開設予定。
6. 7	行政対話	区役所		青葉区防災体制で区担当者と懇談。
6. 10	例会 15	別館	7	「区民のつどい」(7・1)準備報告。
7. 22	例会 16	藤が丘	6	「区民のつどい」:分科会運営「好評」、「次年度予算要望」7月末提出。
8. 12	例会 17	公会堂	7	「区民会議運営改善検討小委」発足を了承。
9. 4	懇談	区役所	8	講師・吉田幸子さん(港南日隈山小・地域防災拠点運営委)囲み、地域防災懇談。
9. 9	例会18・懇談	奈良	8	講師・大友武志青葉署交通課長囲み、交通問題懇談。
10. 14	例会 19	藤が丘	7	懸案整理:新防災マップづくり、災害帰宅訓練、青葉台交通混雑対策、放置自転車、市ヶ尾～区役所シャトルバス
11. 11	例会 20	別館	6	募集2ヵ月線上決定、3区交流会(11・18)・全市交流会(11・22)報告。「シャトルバス」要望へ、「自転車対策」書面提出へ、「防災マップづくり」継続へ。
12. 9	例会 21	藤が丘	6	「災害帰宅訓練」:問題点の調査整理で継続へ。
12. 28	行政対話	区役所	3	「放置自転車」で区に提言書提出、市担当部局への直接説明要請。
13. 1. 13	例会 22	別館	8	新委員募集報告、予算要望回答報告:あざみ野駐輪場、防災マップ、自転車監視員、同報無線。
2. 10	例会 23	藤が丘	13	「同報無線」新設要望への回答検討、広報用部会関係原稿説明(見学者5人)。
2. 14	行政対話	区役所	7	「同報無線」新設問題で市災害対策室と話し合い。
2. 28	同上	本庁	4	放置自転車対策で市民局と話し合い。
3. 10	例会 24	みすずが丘	9	3期活動まとめと引継ぎ事項整理。

## 2年間の取り組み・今後の課題

### 近隣自治体調査で 課題浮き彫りに

第3期の2年間は次のテーマを中心に活動しました。

- 1 田園都市線駅周辺の放置自転車の総合的対策
- 2 あざみ野駅前交差点の「斜め横断」解消対策
- 3 低料金コミュニティバス導入の提案活動
- 4 大災害時の帰宅対策
- 5 災害安全マップづくり
- 6 同報無線システムの整備

これらの活動では、マイカーに頼り過ぎた住宅地開発中心の街づくりから、そこに住む人々の生活ぶりに目を向けた取り組みに心がけました。横浜市周辺の自治体ではどうしているのか、その状況の視察や調査に努め、課題も浮き彫りになって行政に提言しました。

《放置自転車対策》平成12年、青葉台駅前やあざみ野駅前に、相次いで、区の「監視員」の配置が実現、事態が大幅に改善されました。

その一方で、横浜市の「道路管理の在り方」など課題も浮かび上がりました。(次ページ参照)

《青葉台駅前の交通混雑解消》この問題も自転車問題の検討の際取り上げ、以前のバス対策委員会の実績を踏まえ、住民参加の総合的な検討委員会の設置を要望。平成13年度に設置の見通しがつきました。

《コミュニティバス》第2期に続き、「区民会議ニュース」、「区民のつどい」などの場を通じキャン



ーン活動を続けました。

### 市(区)政への要望・提言

#### 「同報無線」整備と「バスサービス」改善 平成12年度予算

〈防災〉

- 1 災害時の区民広報推進へ、同報無線整備。
- 2 水銀灯の設置促進で住宅地を明るく。

〈交通〉

- 1 利用者の立場でバス・サービス改善。
- 2 コミュニティ・バス導入に向け、調査開始。
- 3 放置自転車整理で指導員配置を。
- 4 余裕ある歩道に暫定駐輪場設置を。
- 5 「違法駐車ゼロの日」のモデル地区設定。
- 6 あざみ野駅西口交差点信号のスクランブル化を。

### 放置自転車監視員 2 駅前に配置実現



青葉台駅前

折りも折り、坂が多い梅ヶ丘地区では、毛呂自治会長のリーダーシップで、青葉区内初の小型住宅循環バスが12年2月に実現、7月の「区民のつどい」で、その体験を聴く機会を得、活動の輪が広がりました。

《あざみ野駅西口の南北交差点の「斜め横断」》

これが日常化しているのは危険と、警察と話し合ったところ、信号システムの問題というより、広場の「構造的な問題」が見えて来ました。(次ページ参照)

《大災害時の帰宅対策》東京方面から帰る通勤通学者の帰宅対策を検討するため、12年1月、二子多摩川～市ヶ尾の13kmを実際に歩いてみました。

その結果、川を渡れず東京側で立往生する何万という人たちをどうするかなど、途轍もない課題が浮かび上がりました。(次ページ参照)

このように、どれをとっても「今すぐ解決」という訳にはいかないことばかりですが、生活者の立場に立った21世紀型の心豊かな街づくりのため、息の長い取り組みをして行きたいと思えます。

#### 大災害時の情報伝達は「街頭無線放送」で 平成13年度予算

- 1 「防災同報無線システム」整備の方針明示を。システム整備については「検討中」の回答があったが、実施時期などの明示を要望。
- 2 あざみ野駅ガード周辺に有料登録簡易駐輪場を。不便・用地難・道幅などを勘案、実態追認を望む。
- 3 青葉台駅周辺の交通緩和へ総合対策検討を。バス対策委の実績踏まえ、住民参加の委員会を設置、電線地中化、など現実的道路活用を図る。
- 4 交通繁華街に駐車などの交通指導員を配置。
- 5 防災マップの地域詳細版作成に行政支援を。



活動一覧

年月日	種別	場所	人数	内容
11. 4. 17	例会 1	別館	16	部会長選出。部会名称の検討など。
11. 5. 15	例会 2	公会堂	17	「区民のつどい」部会テーマ、年間計画、市予算、区づくり推進費への要望検討。
11. 6. 19	例会 3	若草台	12	「区民のつどい」部会テーマ「赤ちゃんからおとしよりまで一ふれあいの子育て・教育を」と決定。年間活動計画で、5テーマ領域のプロジェクトチームでの対応を検討。
11. 7. 3	つどい	公会堂	25	第3分科会「赤ちゃんからおとしよりまで一ふれあいの子育て・教育を」開催。
11. 7. 17	例会 4	山内	15	市予算への要望検討。部会活動5テーマ領域でのチーム編成。
11. 8. 21	例会 5	藤が丘	15	市予算への要望8項目決定。部会公開講座テーマ、区づくり推進費への要望検討。テーマ別3チームの編成とチームリーダー選出。
11. 9. 18	例会 6	美しが丘西	12	「語る会」準備委員選出と会議運営についての検討。部会公開講座の検討。教育・子育て・生涯学習各チームの報告。
11. 10. 6	勉強会	板橋区	5	板橋区「児童館」「何でも相談室」「育児サポート」を実地見学し、懇談。
11. 10. 8	勉強会	区役所	14	「ゆめはま教育プラン」市教育委員会一橋田課長、小口補佐、飛田指導主事。
11. 10. 16	例会 7	藤が丘	11	「語る会」実行委報告と部会意見の調整。部会公開企画を「つどい」のテーマ継続とし、「子育て支援のつどい」と決定。準備委員を選出。
11. 11. 20	例会 8	公会堂	15	「子育て支援のつどい」最終打ち合わせ。「語る会」経過報告と検討。チーム報告。
11. 12. 5	公開企画	公会堂	27	「子育て支援を考えるつどい」開催。
11. 12. 18	例会 9	若草台	13	「つどい」報告、一般参加者6名を加え区民委員会を発足。「語る会」報告と検討。
12. 1. 15	例会 10	別館	13	「語る会」報告と検討。委員総会の概要説明と運営内容の検討。各チーム報告。
12. 2. 5	例会 11	別館	12	「語る会」報告と検討。委員総会の運営検討。
12. 2. 15	勉強会	区役所	11	「はまっ子ふれあいスクール」市教育委員会一中島課長補佐。
12. 3. 18	例会 12	山内	14	「語る会」総括報告、その評価と討論。委員総会での部会報告内容の検討。
12. 4. 15	例会 13	藤が丘	11	委員総会関連説明と検討。12年度市予算要望への回答説明。区民会議HP作成委への参加要請。「つどい」実施プラン検討。新年度部会活動の検討。チーム報告。
12. 5. 18	勉強会	山内	12	青葉区保健所高橋所長、岸本係長から、区の子育て支援の現状を聞き、懇談。
12. 5. 20	例会 14	公会堂	11	HP開設作業報告。「まちづくり会議」「北部3区交流会」「区民のつどい」説明と検討。部会の年間月次計画に、チーム活動の報告と検討をスケジュール。
12. 6. 17	例会 15	藤が丘	11	「区民のつどい」企画で、「地域で教育を考える」を福祉・文コミ部会との共同開催と決定。佐々木委員「病気になることを願って」講演。
12. 7. 1	つどい	公会堂	51	公開講座「地域で教育を考える」開催。市ヶ尾中学の事例を中心に。
12. 7. 15	例会 16	別館	13	「区民のつどい」総括報告と討論。市予算への要望、各チームから要望項目提出。11月予定の公開講座企画、「地域で教育を考えるⅡ」の方向で検討。
12. 8. 19	例会 17	若草台	13	区民会議「運営検討小委員会」の設置説明と委員選出ほか。
12. 9. 16	例会 18	山内	11	「運営検討小委員会」経過報告。「公開講座」。自由討論「HPについて」。
12. 10. 21	例会 19	奈良	9	HP講習会案内。全市区民会議交流会、北部3区交流会参加者選出。「運営検討小委員会」経過報告と検討。公開講座の企画説明。
12. 11. 18	例会 20	藤が丘	11	公開講座「地域で教育を考えるⅡ」経過説明、当日の分担。子育てチーム現状報告。
12. 11. 26	公開講座	山内	74	「地域で教育を考えるⅡ」開催。地域の教育ボランティアを中心に。
12. 12. 16	例会 21	藤が丘	11	第4期区民会議委員募集について、スケジュール説明とオリエンテーション対応の検討。「部会設置小委員会」委員選出の要請。福祉・文コミ公開講座への支援要請。
13. 1. 20	例会 22	藤が丘	9	第3期総括文書の検討。第4期委員への部会アピール。部会設置小委員会委員選出。
13. 2. 17	例会 23	山内	11	新委員体験参加8名。部会設置小委員会の経過報告と意見交換。臨時部会開催決定。
13. 3. 10	臨時部会	山内		部会設置小委員会の報告と意見交換。
13. 3. 17	例会 24	若草台		部会設置について小委員会、新旧委員交流会の状況と意見交換。第3期活動の総括。(解散昼食会)

放置自転車問題で提言

多くの都市に共通する問題ですが、取り組み方は自治体によって違いがあります。近隣自治体のやり方のいいところを取り入れるのが改善の近道と考えて、青葉区の現状と対比しながら調査しました。

1. 電話による予備的な聴き取り調査：世田谷区、武蔵野市、川崎市、藤沢市など11自治体。これをもとに次の「実地調査」の対象を選定しました。
2. 駐輪場等現地状況視察、管理人や市役所職員から聴き取り調査：平成11年8月鷺沼駅、溝の口駅、藤沢駅。以後吉祥寺駅や田園都市線・こどもの国線各駅など必要に応じて随時視察しました。
3. 関連する法律（自転車法）や条例も勉強して参考にしました。

他市は放置問題と駐輪場建設とを一体的に考え、道路管理の実務部門が一元的に管掌していますが、横浜市では放置対策は市民局、駐輪場建設は道路局とに分かれ、総合的な対策推進の上で問題があるようです。

また平成12年青葉台とあざみ野に「監視員」が配置されるようになったことは、前年の当部会提出の要望に沿ったことで一歩前進です。ただ他市の「指導員」という呼び名と違うところが気になります。

調査結果を考察し「放置自転車問題に関する提言」としてまとめ、平成12年12月に区長に提出しました。横浜市の関係部局と引き続き話し合いをする予定です。

中長期的計画で推進を

提言の内容は大小9項目ほどありますが、具体的で分かりやすいものばかりです。かいつまんで紹介すると、

- ① 駐輪場が足りないのを放置しないで中長期的計画に基づく対策推進を。(もっと前向きに)
- ② 駐輪場不足が当面解消できない所は、歩行者や車椅子の安全を確保した上で公道利用など現実策を。例えばあざみ野駅ガード下の広い歩道を、整理員つきの暫定駐輪場に。(もっと柔軟に)
- ③ 住宅開発で放置自転車が激増した田奈駅に駐輪場設置を。(もっと敏速に)
- ④ 駅から遠い駐輪場は安くすとか、一日利用に回数券をつくるとか、利用者に対するサービスも。(もっときめ細かに)

というような行政への呼びかけです。

自転車は無公害で健康的な交通手段であり、自転車法でも「利用者の利便の増進」が謳われています。放置対策で利用を抑えているのは本末転倒。利用者の意見も汲み取る行政姿勢が望まれるところです。



鷺沼駅周辺での調査

あざみ駅西口2交差点 “斜め横断” が日常化



ご存じの方も多いと思いますが、現地を見て一同ビックリ。そこで「信号をスクランブル化しては」と、青葉警察署と懇談したところ、交通煩雑で、短い距離の中で多くの信号機があり、「技術的に不可能。北・南、2つの交差点を、直角に渡って頂くしかない。」

現場をよく見ると、タクシー乗り場もバス停の向う側。お年寄りや身障者が渡るには危険な構造をしている駅前広場ということが分かりました。

あざみ野駅は、地下鉄延長で、発展が期待されているところ。広場改造も視野に、地元自治体と力を合わせ、息の長い活動を続けたいと思います。

大災害 東京から徒歩帰宅は可能か

東京都内への青葉区の通勤通学者は、大災害となったら、歩いて帰れるのか、こんな問題に取り組もうと平成12年1月、部会員7人で二子多摩川から市ヶ尾の区役所まで約13キロを歩いてみました。

所要時間約3時間20分は、まずまずでしたが、何せハイキング・スタイル。「緊急用の運動靴など職場での備えがあるね」、「沿道に飲み水は?」、「救護班が出ていたらいいね」、「コースは246か旧道かで迷うが、その情報はどうして取るの」などという、おしゃべりウォークでしたが、そのうち、「橋がやられたらどうして渡るの?」、「自衛隊も大変だろうし、何万人も土手で野宿するの、まるで難民?!」、という途轍もない問題に突き当たりました。

丸ノ内や霞が関など旧都心の方は、巡視船で輸送という考えもあるようですが、新宿、渋谷方面はどうなるのか、横浜市をはじめ関係機関の考えなども聞きながら、時間をかけて調べていきたいと思います。



## 主題別に3チームの活動で成果

区民会議は議論ばかりしている集まり…  
いいえ。この青葉区に、この街に住んでいる誰もがここに暮らす事に誇りを持ち、ここに住んでよかったと思えるように、みんなに優しいみんなに住み心地のよい青葉区にしたい、そのために十分な議論をし行政に提言し、その提言した事がどのように市民生活に反映してくるかを見届けましょうというコンセプトで今期の教育部会は進んできました。

今期、当部会では一つの試みを実施しました。それは部会員の研究主題を各自が絞り込むという事です。

当部会はその名が示すようにヒトの一生の全ての年代に関わっています。当然、部会員はそれぞれが勉強したいと考えている対象が少しずつずれているという事にもなります。自分が研究したい主題を、よりの確により深く捉えるために、その主題ごとに部会を三つに分割し「教育チーム」「子育て支援チーム」「生涯学習チーム」として各チームが独自に活動をしました。



「子育て支援を考えるつどい」

複数のチームに参加する人もいて、延べ人数で見れば部会員以上の活動が来ています。

たとえば、平成11年7月の「区民のつどい」では、子育て支援チームが中心になって分科会を持ち、現在個別にある子育て関連グループのネットワークを構築する必要性が話し合われました。その話し合いから12月の当部会主催の「子育て支援を考えるつどい」へとつながり、チームの活動を拡大しようとしています。

また、平成12年7月の「区民のつどい」は福祉部会文コミ部会と協働の上、教育チーム、生涯学習チームが「地域で教育を考える」をテーマに分科会をリードして、これもまた11月に「パートII」と題して多くの教育関係者、一般区民を交えて考える事ができました。

部会員は20名。うち男性9名、女性11名（一般区民からの公募13名、団体からの推薦者7名）年齢的にも30代から70代までの多岐にわたっています。

（各チームの活動報告は次頁に）



「地域で教育を考えるパートII」

### 市(区)政への要望・提言

#### 「ふれあいの仕組みづくり」の推進

平成12年度予算

1. 子育て中のお母さんと年少児のための、多世代ふれあい拠点「地域リビング」(仮称)の開設
2. 各種支援活動を結ぶ、子育てネットワークづくり
3. 他市に比較し利用料負担が大きい学童保育の改善  
一市と民間による共同事業方式の採用
4. 学校教育への地域参加について、横浜市方式の制定と全地区統一実施
5. 「はまっこふれあいスクール」運営への地域参加
6. 不登校児対策の整備
7. 地区センターへの障害者雇用
8. 世代間交流のための学校開放

#### 地域連携の仕組みの早期実現を

平成13年度予算

1. みんなが「地域家族」として子育てを支援する「あおば子育てホットステーション」の開設
2. 市がモデル事業として南部6区でスタートした「横浜子育てサポートシステム」の青葉区早期実施
3. 認可保育園(公・私)の増設と保育時間の延長
4. 「ゆめはま教育プラン」で考えている学校運営委員会・地域教育会議を他の区に先駆けて設置
5. 地域の人材を教育に結集するための教育人材バンク情報ならびに教育関連情報のネットワークの構築
6. 生涯学習・自主学习など市民活動の場として、学校・公共施設の積極開放と時間延長
7. 重度障害児の教育施設を青葉区に早期設置

## 学校・家庭・地域のネットワークづくりを

学校と町の教育現場の熱意を紹介 [教育チーム]

平成11年4月、部会メンバーが大幅に入れ替わったこともあって、当初は右往左往、しかし、この春からスタートした『ゆめはま教育プラン』(横浜市)について、市教育委員会・橋田企画課長から話を聞いた(10月)頃から、<教育の現場と地域住民とのかかわり>チーム(通称教育チーム)は、これまでよりもテーマを大きく拡大(一部の子から普通の子へ)、折柄の学力低下・学級崩壊・17才問題(少年犯罪多発)等社会の急変化に対応する形となりました。従って、文部省・市企画局(21世紀の教育と子どもを考える会主宰)・市教育委員会・横須賀市教委など関係官庁から、問題点をより正確に把握するための情報を幅広く収集、また教育改革国民会議での議論展開にも強い関心を持

ち、委員間の認識の一致に努めました。

平成12年の区民のつどいでは、分科会の1つとして『地域で教育を考える』のテーマで、市ヶ尾中の鈴木先生をパネリストとして、同校の実践的な教育での地域と学校の繋がりを取り上げ、ビデオでもその実績を紹介。11月には、その第2弾として、レスリングの木口さんをはじめ、町で子供たちの教育を支援する方々の熱意を紹介しました。今度以降第3弾、第4弾として、学校を支えるPTAや『親父の会』など地域のボランティア達の活躍振りを紹介し、近々スタートする総合的な学習を推し進める体制を支援。そして早い時期に、学校・家庭・地域の協力をより良くするネットワーク作りを後押ししていきたいと思います。

## 地域ネットの子育て環境づくり

区民参加で「地域家族」のつどい [子育て支援チーム]

みんなの支援で楽しい子育てを「地域の育児」の環境づくりが子育て支援チームの課題です。

当部会は平成11年7月、「区民のつどい」分科会で「ふれあいの子育て・教育を」をテーマに皆さんと話し合い、各種支援活動のネットワーク化、多世代ふれ合いスポットの開設など区民ニーズを確認しました。

同年10月、チームのメンバーは板橋区の「児童館」「何でも相談室」「育児サポート」を実地見学、区民と行政の協働による子育て支援の歴史を聞きました。

そして同年12月、当部主催の「子育て支援を考えるつどい」で区民の皆さんと再会、2人のアドバイザーを交えて実践的な意見交換を行いました。「自分が母

親でしかない事にストレスがある」「今のお母さんはわがまま、でも何か力になりたい」「人格形成に大切な子育て・幼児教育に行政はもっと真剣に」「区民自身が小さな事でも1歩ふみ出す勇気が必要」などホットな発言があり、幼いお子さんをもつお母さん方から今後のチーム活動に参加の申し出がありました。

12年5月には青葉区保健所の高橋所長・岸本係長と懇談、区の「子育て110番」(子ども・家庭支援センター)について区民会議HPから情報発信しました。

チームでは区民メンバーと13年1月から、幼児をかこむ多世代の集い「子育てホットステーション」を毎月1回開催、「地域家族」の輪が広がっています。

## いきいき人生の周辺を築く

「人生のベテラン」の学習問題を話し合い [生涯学習チーム]

社会人として充実した人生をおくるために生涯にわたり学習は続けられています。その学習は大きく就学前の受動的な時代、受動的から能動的な勉学へと変化を見る小学校入学から大学(大学院)卒業までの時代、そして社会人となって自己の人生を充実させるための学習時代の3つに区分出来ます。

未就学児童のことは「子育てチーム」に、学童・学生の場合は「教育チーム」に任せ、生涯学習チームは、社会人となった人々の学習について、とりわけ高齢化社会にあって近年その数が増加して来ている、人生のベテランと言われる方々の学習問題を話し合ってきました。定例会議を月一回実施し、各自が地域の自主活

動グループに参加した経験を持ち寄り、活動の実態、問題点を、コーヒーを飲みながらじっくり話し合い、いろいろな切り口から検討し問題点を絞り込みました。

課題としては、①学習場所の確保の問題として「学校施設の開放」、②自主活動の触媒的役割を果たす「自主活動コーディネーターの育成」、③「地域ベテランの知恵の活用」を取り上げました。現在課題の掘り下げに移っています。

具体的な活動としては、H12年2月15日に横浜市教育委員会の中島良行氏を招き「浜っ子ふれあいスクール」の勉強会を開催、11月26日に教育チームと公開講座「地域で教育を考えるII」を開催しました。